

改訂にあたり

男女共同参画推進プラン（第2次）（2017年度～2026年度）の前期が経過したことを踏まえ、これまでの進捗状況を把握し、昨今の社会情勢の変化への対応を図るために、この度見直しを行いました。

見直しにあたり、この5年間で富山県や国、そして世界における状況が大きく変化していることやその動きなどを踏まえたうえで、令和4年6月に市内の若者・子育て世代向けに男女共同参画に関する記述式のアンケート調査を実施したところ、家庭・地域・職場全ての面において、あるべき姿にはまだまだ不十分な状況であることが見えてきました。

このことは、南砺市の慣習や風土が個人にとって負に働いている一面があるということであり、それらが一人一人の幸せの実現を妨げる要因になっているとしたら、それは早急に改善すべきことです。南砺市における男女共同参画推進に関する水準は、ある意味スタート地点から低く、それが今までの地域のバランスを保ってきた一面もあることも認識し、それらを直視して、南砺市の将来のためにこのプランにさらに何が必要かについて、真剣に議論を重ねてきました。

男女共同参画の課題は、人権問題であり、南砺市が持続するために解決すべき少子化や人口流出に大きく関わる課題でもあります。そして、行政だけでは解決できない課題であり、何より市民の意識形成

が重要であるため、これらの課題解決のためにも、このプランを全市民に広げ、全市民を挙げて取り組むべき大きな課題です。

南砺市は2019年に、SDGs未来都市に認定されており、その5番目の目標には「ジェンダー平等の実現」が掲げられています。そして、第二次南砺市総合計画の中で、「多様性の容認」「ジェンダーギャップの解消」を掲げています。

ジェンダー平等の生まれもった性によって生き方を狭められないという意味においては、男女という区別そのものを多様性という観点から捉えるべきであるという考えもあり、今後早くその議論のスタート地点に立つためにも、南砺市において男女共同参画の推進は、あらためて早急にかつスピードを上げて取り組む必要があります。

南砺市が「共に認め合う 南砺の明るい未来」に向けて、「誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ」確実に進んでいくために、市民が危機感をもって主体的に、そして一丸となって取り組み、行政と共にこのプランをやり遂げることを強く望みます。

令和5年9月27日

南砺市男女共同参画推進審議会

会長 渡邊 美和子